

深志神社は信州松本城下
南深志の地四十八ヶ町
氏子の守り神さまです



写真 撮影・提供 監物恒夫氏 ©TSUNEO KEMMOTSU

天神通りを神社へ還御される（平成18年より40年ぶりに復活しました）
天満宮元禄神輿 松本城主水野忠直公奉納。市重要文化財（元禄12年・1698）

ふかし 深志神社社報第4号
発行日 平成19年7月1日
発行所 深志神社社務所
〒390-0815
松本市深志3丁目7番43号
電話 0263-32-1214
FAX 0263-32-5908
印刷 (株)日本広告

小笠原秀政が宮村の地に小笠原氏の守り神である北野天満宮を迎えた意図は、棟札に次のように記されています。

宮村は南北朝時代の初めに、信濃守護になった小笠原貞宗が、筑摩郡庄内井川の地に守護館を構え、その鬼門除けとして諏訪大明神を勧請したところで、地名もそれに由来します。

北野天満宮の勧請
陰陽道では東北の方角を鬼門として、万事に忌みきらいました。江戸時代には東北の方角には鬼門除けとして神社仏閣を勧請して鬼門を封じたのです。江戸では鬼門は上野の寛永寺です。松本では慶長七年（一六〇二）に石川康長が岡宮と安楽寺を祀りました。

松本市文化財審議委員 中川治雄

松本城下の町衆の心を
一つにした深志神社

深志神社をとりまく歴史と文化《3》



菅公御正忌1100年大祭（平成14年）で改修された折の社頭

往古から文道の太祖、王道の補佐として庶民を子の如く憐れみ、願ひ事は総て叶えて下さる天満宮を深志の城の辰巳（南東）の霊場に迎え奉り、深志城の鎮護神とし、天地長久、子孫繁栄を賜っていただくためである。

こうして宮村両社は川南、岡宮は川北の産土神に祀られたのです。

水野忠直御輿寄進が
城下の繁栄へ

境内の整備と祭の
たかまり

宝永二年（一七〇五）には境内の大規模な整備が氏子の普請で行われ、現在の社殿の配置になりました。また寛政八年（一七九六）には本町倉科七郎左衛門の裏で瓦が焼かれるようになり、翌年には神輿殿の屋根を飾りました。町屋の最初の瓦屋根です。こうして祭の高揚期を迎えるのです。

その契機となったのが文政八年（一二二五）の戸田家治城百年祭です。戸田光慈が藩主になってから百年の節目を迎えたのです。全領内あげて藩公認の前代未聞の祭典が行われました。享和二年（一八〇二）の天満宮九百年忌、天保五年（一八三四）の市神の祭礼。「市神之図」には治城百年祭を企てたところ年々歳々賑やかになり天保五年の歳までには大祭礼になったと書いてあります。同十二年（一八四一）には神祇管領長上吉田家に願ひ出て社名を深志神社に改めました。そして嘉永

三年（一八五〇）の天満宮九百年忌は「近郷所々より参詣の群衆前代未聞」（中町飯森家「庚申帳」）と最高潮に達したのです。

こうした繁栄の蔭には城主の崇敬は勿論ですが、商都松本を支えた町人の心意気と力があったことはいまでもありません。

後記

▼本号は天神祭りのご案内、舞台保存会の活動を主に編集しました▼表紙写真をご提供いただいた監物恒夫先生は神輿研究で著名な方です。ご厚志に感謝申しあげます▼第一号より連載の「氏子町内の旧町名石碑めぐり」は今回で終わりです▼次号は12月です。

糸糸町内の旧町名「石碑」めぐり《4》

【第四班】
飯田町 一・二丁目
◆江戸時代末の町名
飯田町の由来
飯田町は松本城下町十町の一つで、中町に属していた。慶長十八年（一六二三）城主小笠原秀政が飯田より入部した際に飯田町から来た侍衆が奉公人職人を置いたのが由来であるという。享保年間は家数七十軒あり主に鋳物師紺屋石屋鍋屋などの職人が住んでいた。（平成二年 藤森病院角）



分銅町
◆昭和初年の旧町名
明治三十五年に篠ノ井線が松本まで開通し、松本駅と糸魚川街道の今町に通じる道がつくられた。その開通に功績のあった大飼久左衛門・同孝吉父子の屋号「分銅屋」に因んで分銅町と付けられた。（平成十四年 分銅大飼ビル前）



西長沢町
（石碑なし、長沢町参照）



（平成四年 飯田町「丁目大塚書店前」）

西五町
◆昭和初年の旧町名
明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たに町々が形成されたが、西五町もその一つである。この町名は、旧城下町の町名である本町五丁目の西に当たっているのでこの名がつけられた。



〔平成十年 井上前交差点角〕

西河岸

◆昭和初年の旧町名

明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たな町々が形成されたが、西河岸もその一つである。この町名は、旧城下町の町名である本町五丁目の西に当たっているのでこの名がつけられた。



〔平成七年 駅前記念公園北側〕

国府町

◆昭和初年の旧町名

明治三十五年に篠ノ井線が開通し、松本駅が松本町の玄関になると、それに相応しい町名として、かつてこの地が信濃国の府中として栄えていたように、松本町の繁栄を願って国府町と命名された。（平成十四年 キクラバパーキング角）



〔平成十四年 キクラバパーキング角〕

小池町

◆昭和初年の旧町名

小池町は松本城下の枝町七町の一つで中町に属していた。慶長十八年（一六三三）城主小笠原秀政が飯田より入部の際、南半分を奉公人衆の屋敷にした。その中に小池甚之丞という軍学兵法の達人がいたのでその名を取ったという説とこの辺りに小さな池があったことに由来するとの説がある。



〔平成二年 小川耳鼻咽喉科角〕

神明町
◆昭和初年の旧町名
伊勢町通りの中ほどに神明小路があり、その奥に神明宮が祀られていた。明治三十五年に松本駅が開設され、そこから東へ、市内中心部を結ぶ通りとして神明町がつくられた。町名は神明宮に因む。（平成十四年 神明神社角）



〔平成十四年 神明神社角〕

もうすぐ天神祭りです



日本舞踊奉納・町内神輿参拝(宵祭)



露店で賑わう境内(宵祭)

【宵祭】7月24日(火)

17:00～ 町内舞台曳き込み
17:00～19:00 日本舞踊奉納
19:00～ 前夜祭神事
20:00～ 詩吟・献舞

【例大祭】7月25日(水)

11:00～ 例大祭神事
13:00～ 穂高太鼓奉奏
14:00～17:30 御神輿御巡行
15:00～ 町内舞台曳き出し

八坂祭のご案内

7月14日・15日

当社におまつりする八坂さまは、病氣除け・虫封じなどおもに子どもたちの健やかな成長を祈る守り神として慕われています。7月14日の宵祭には五色の幟を奉納する多くの子どもたちのお参りで境内は賑わいます。

今からおよそ三〇年前、元禄13年(一七〇〇)松本地方に大きな疫病が流行しました。そこで疫病除けの神として信仰を集めていた津島神社(愛知県)から御分霊をいただいで祀られたのが当社社の八坂さま、八坂祭の始まりです。

(浄書例)

納奉
八坂大(明)神
○(妻)年生 ○歳(女)男(氏名)



天満宮神輿の三階松神紋

北野天満宮の御神紋です

八坂祭の幟奉納

元禄十一年(二六九八)
松本城主水野忠直公の奉納
御祭神・神紋
(宮村宮神輿)
建御名方尊命 梶の葉紋(屋根・台輪)
(天満宮神輿)
菅原道真公命 梅鉢紋・二階松紋(屋根・台輪)

【造り】台輪…三尺寸(18cm)

胴部…太型四圍に朱漆塗りの鳥居(囲垣)を配す

【装飾】塗り…主要部黒漆塗り ほか極彩色

彫刻…戸脇に彩色花・絵画

欄間部に飛天図など

銚金具…主要部 入出八双金具

風鐸・環瑠付

【特徴】屋根は野筋と葺手が直連しない古い形式

八双金具の唐草紋は松本独自の伝統文様といわれる

【由緒】屋根裏天井部分に世話役大名主以下十八名の町人・職人の名前を記した墨書があり松本城主水野忠直公の意を体して南深志の町人たちにより建造・寄進されたことが分かる

この御輿には城主と町人たちの城下町の平安と繁栄を祈願する心がこめられており、元禄期松本の町文化の結晶といえる

【補修】安永三年(二七四) 昭和三〇年(二九五) 平成十四年(二〇一)



八坂祭の幟奉納

北野天満宮の御神紋です

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納

八坂祭の幟奉納



深志神社の神さまが、年に一度、町内を巡られます。どうぞお迎えください。

平成19年度 深志神社例大祭(天神祭り)
御神幸式 神輿渡御巡路 A (車載) 天満宮神輿
7月25日(火) 午後2時～5時30分

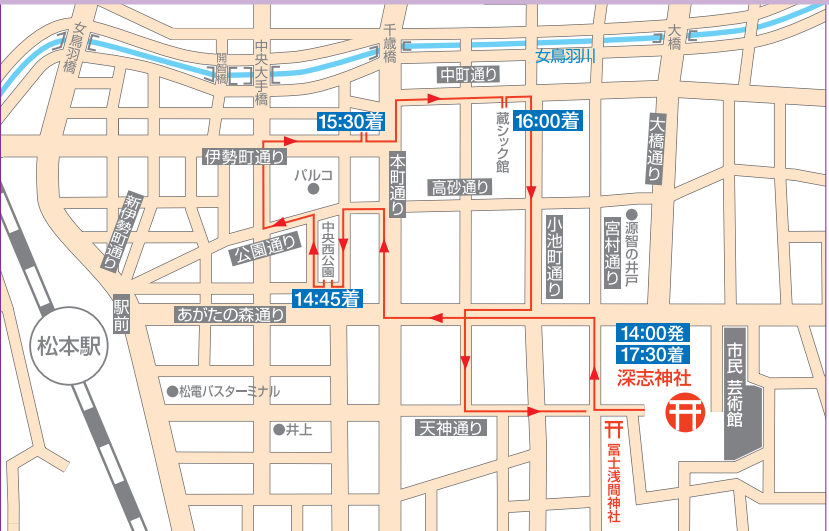
自動車による神輿渡御巡路は西(鎌田)先回り・東(清水)先回り・とが隔年となります。
本年度は西(鎌田)先回りです。

(お注連についてお願い)
町内に張られた注連縄を取り外すのは
お神輿が通られた後としてください。



中央西公園に神輿渡御

神輿渡御巡路 B 宮村宮神輿



信州松本松深会ほかの人の奉仕により、かつがれて渡御します



鎌田天満宮跡

お旅所は鎌田公民館です。
これは御祭神菅原道真公が鎌田天満宮から
慶長19(1614)年[393年]前に、当社へ
勧請され、お祀りされたご由緒によるものです。
なお、鎌田天満宮は明治42(1909)年 4月
25日[98年前]に当社に合祀されています。



お旅所は鎌田公民館です。
これは御祭神菅原道真公が鎌田天満宮から
慶長19(1614)年[393年]前に、当社へ
勧請され、お祀りされたご由緒によるものです。
なお、鎌田天満宮は明治42(1909)年 4月
25日[98年前]に当社に合祀されています。

松本深志舞台保存会だより《3》

■飯田町二丁目
舞台の修復竣工